

2. 指標設定

成果指標	指標名	観光入込客数		H27	指標の設定理由			
	数値	2,094,000人			豊後大野市外からの観光入込客数を増加させることを指標とし、数値設定は平成20年度時点の道の駅のレジ客数の2.5倍とした			
活動指標	指標	a	道の駅レジ客数	b		c		d
	数値	目標	1,016,000件/年間	目標		目標		目標

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H20	H21	H22
観光入込客数	人	1,675,000	1,724,000	1,880,000
	%	80.0	82.3	80.2

活動指標名	単位	H20	H21	H22
a 道の駅レジ客数	件	837,797	862,406	840,014
		82.5 %	84.9 %	82.7 %
b				
c				
d				

4. 課題と対応

課題
観光入込客数の増加につながる為の情報発信の在り方が課題となっている
対応（改善点等）
観光資源の発掘とポータルサイト設置による情報発信の検討を行っている

5. 事業費・・・H20～H22（決算額）、H23（予算現額）

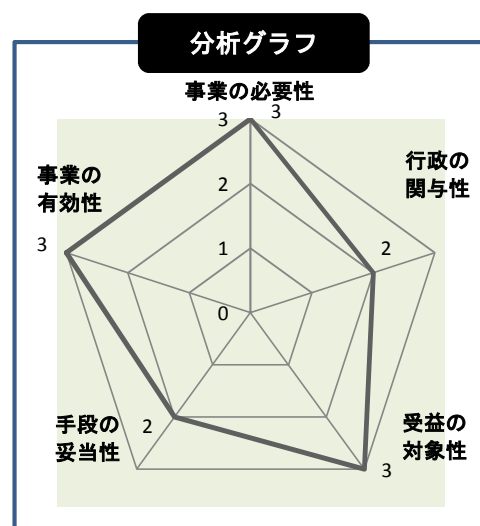
決算額（千円）		H20	H21	H22	H23
うち経常経費		5,106	4,954	5,032	6,885
財源内訳	国費				
	県費		3,346	8,474	16,180
	市債				
	その他				
	一般財源	5,106	4,954	5,032	6,885
うち経常		5,106	4,954	5,032	6,885
事業費に係る人件費		6,827	6,613	6,657	6,751

6. H24年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
積極的に観光まちづくりを進めるにあたり必要な予算である

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 単発的なものではなく息の長い観光を目指すため必要である
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 今後行政と民間との責任分担が必要となる
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 市外からの誘客を回り市民に還元する
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2 目標達成のために適切な手段であるが、検討の余地がある
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 期待どおりの成果が上がっている



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	交流人口の増加と観光誘客及び定住につながるよう、選択と集中で取り組むこと